

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 3月27日

【評価実施概要】

事業所番号	3610125340
法人名	医療法人 東洋病院
事業所名	グループホーム 千寿園
所在地	徳島県徳島市北島田町1丁目126番地6 (電話) 088-632-7778

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成20年 3月 18日

【情報提供票より】(平成20年3月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 3月 3日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	12 人 常勤11人, 非常勤2人, 常勤換算 せんりょう6人, まんりょう5.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均日額)	A 900円, B 850円, C 800円	その他の経費(月額)	実費
敷金	有()円	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	450 円	おやつ 50 円
	または1日当たり		1,050 円

(4) 利用者の概要(3月1日現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	0名	要介護2	7名		
要介護3	4名	要介護4	4名		
要介護5	3名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	75歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・東洋病院
---------	-------

徳島県 グループホーム千寿園 1

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、北側に吉野川を望み三方を閑静な住宅地に囲まれて、併設病院と共に高台の静かな環境にある。玄関周りには季節の花々が植えられている。玄関は施錠されておらず、すぐに広がる共用空間では、リハビリ体操や理念の読み上げ、千寿園ソングの合唱など1時間のメニューを毎日行っている。これは、寝たきりを予防し、身体機能等のレベルアップを図るための取り組みの一つである。また、入浴後は各自で洗濯を行っている。来客がある日の食事には、手巻きずしやホームの菜園から採った野菜等が並び、全員が同じテーブルを囲みゆったりとした雰囲気である。共用空間にテーブルを挟んで置かれた応接セットは利用者の憩いの場となっており、喫煙コーナーも設置されている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題は、会議記録に職員の確認印・サインがないことであったが、今回はすべて職員の確認印・サインが認められ、情報の共有が図られ改善されている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価票を全職員に手渡し、意義を理解したうえで定期会議にて話し合い作成されている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	平成19年度の開催は1回で、討議内容はグループホームと医療についての説明及び意見交換である。参加メンバーは町内会長、地域包括支援センター、協力医療機関代表、利用者、家族代表、居宅介護支援事業者、理事長、管理者及び職員代表である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	面会時や家族会等で、何でも言ってもらえる雰囲気づくりをしている。意見や苦情に対しては、勉強会・スタッフ会議にて話し合い迅速に対応している。また意見箱も設置している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の保育園と毎月交流会を持ち、相互訪問によるふれ合いを楽しみにしている。老人会等の行事にも積極的に参加したり、近くの大学生も頻繁に訪れてくれるなど、地域との交流は盛んである。ホームの菜園で採れた野菜を近隣の方におすそ分けすることもある。

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念「健康・笑顔・明るい家庭」は、H17年の創設時に利用者とスタッフが意見を持ち寄り作成された。利用者の筆による手書きの理念は、玄関等目に付きやすい場所に掲示されている。しかし、地域密着型サービスとしての役割を盛り込んだ理念となっていない。	○	地域密着型サービスの役割を全職員で理解し、地域や利用者のニーズ、事業者の現状にそった理念を作り上げる事が望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域密着型サービスとしての役割を盛り込んだ理念となっておらず、共有はできていない。	○	地域密着型サービスとしての理念を作成し、共有、実践に向けて取り組まれることを期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人会等の行事に積極的に参加しており、地域の保育園児とも毎月交流会を持ち、相互訪問をしている。近くの大学の学生も頻繁に訪れてくれるなど、地域との交流は盛んである。菜園で採れた野菜を、近隣の方におすそ分けすることもある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の意義を全員が理解し、サービスの向上に努めている。外部評価の結果は定期会議等で報告し、改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者、家族代表、町内会長、地域包括支援センター職員、協力医療機関代表、居宅介護支援事業者、理事長、管理者、職員によって構成され、グループホームや医療についての説明や意見交換が行われている。議事録は全職員が回覧することで内容を共有し、サービスの質の向上に活かしている。平成19年度の開催は1回である。	○	運営推進会議は、2ヶ月に1回、定期的開催されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当窓口で、運営の相談や事故報告、疑問点についての質問をしたり、助言をもらったりしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に1度は家族と会う機会を持ち、健康状態等についての説明を行っている。金銭出納帳についても毎月報告し、家族のサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しており、面会時や家族会の時には何でも言ってもらえる雰囲気づくりをしている。意見や苦情に関しては勉強会やスタッフ会議にて話し合い、速やかに対応できるよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職はほとんどなく、1階・2階のスタッフが全利用者に対して馴染みの関係やケアができるような体制をとっている。		
い					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な法人内研修に参加し、ホーム内でも随時、勉強会を行っている。外部への研修にも積極的に参加し、報告書は全職員が回覧することで情報の共有を図っている。また、職員が資格取得することにも力を入れている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会等で他の事業所との交流を図り、情報交換や意見交換を行っている。また、全職員に報告書を回覧し、情報を共有し、ケアの質の向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始までに、本人や家族に体験利用や見学を重ねてもらい、納得されたうえで入居につなげている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と共に行う作業の中で、畑仕事や料理、手紙の書き方、掃除の仕方、礼儀作法など多くのことを利用者から教わり、共に支えあいながら過ごしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わり合いの中で言葉や表情などから、思いや希望を把握するようにしている。訴える事が困難な方については、表情や行動等の観察を日々行い対応を検討している。		
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者一人ひとりのケアチェック表を基に、長期・短期目標を定めた介護計画を立て、利用者が自分らしく暮らせるよう支援している。作成には全職員が参加し、利用者や家族の意見や思いを反映した介護計画となるよう工夫している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月のカンファレンスは、個別プランの見直しも兼ねている。問題が起きた時は、その都度利用者とともに見直しを行い、家族にも説明をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制があり、利用者や家族の希望に応じて、通院介助などにも対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染みのかかりつけ医への受診支援や、併設病院との連携により、症状に合わせた他科受診への支援も行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族には、医療連携による医師が定期的に現在の健康状態と緊急時等の説明を行っている。看取り介護に関する指針や同意書も作成し、利用者や家族の希望に対応できるよう備えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりに合わせた言葉遣いで接し、相手を尊重しつつ気兼ねない会話が交わされている。また、プライバシー保護マニュアルを作成し、全職員の共通認識のもと個人情報保護に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	行事や遠足等は、1ヶ月前から利用者としこずつ話し合って予定を立てている。リハビリ等のゲームも、利用者と共に作成している。散歩や買い物は利用者の意向に合わせて支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員はともに準備、食事、後片付けを行っている。また、食事が楽しみなこととなるようホームの菜園で採れた新鮮な野菜を使うなど工夫している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望にそった入浴支援を行っている。体調が悪く入浴できない場合は、足浴や清拭等に対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	朝の掃除、食事の用意、字の上手な方には掲示物を書いてもらう等、場面に応じて能力を活かした役割を担ってもらっている。喫煙を楽しむ利用者もいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には一人ひとりの体調や移動可能距離等を考慮し、散歩や買い物に出かけている。また、買い物ではできる限り本人がレジで支払えるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、玄関を開放している。帰りたいたって玄関を出て行く利用者もいるので、職員が付き添って外に出ることもある。職員は自由な暮らしの大切さを認識し支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は法人と合同で年2～3回実施している。ホーム独自の勉強会や利用者とも話し合い、実践的な演習を繰り返し行っている。また、地域の協力が得られるよう働きかけ連絡網も整備されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士からアドバイスを受け、体調に合わせて個別のメニューを取り入れることもある。水分や食事は介護記録に記入され、職員はこれを確認してから勤務にあたっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りや窓際には季節の花が置かれ温かい雰囲気を出している。壁面には、1ヶ月毎に利用者で作成した手作りカレンダーや、季節毎に描かれた絵、行事や保育園児との交流写真が多数貼られ、心を和ませている。共用空間にテーブルを挟んで置かれた畳コーナーと応接セットは、利用者のくつろぎの場となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	すべての居室にはスナップ写真を添えたその人らしさが感じられる手作りのカレンダーがある。居室はシンプルだが、箆箆類や装飾品、テレビ、冷蔵庫やポットなどを置いている方もおり、それぞれが落ち着いて暮らしている。		